

Press Release

2023.6.17

大石一貴、小宮りさ麻吏奈、湯田冴、ほか

「血は水よりも濃い、何も分かってないのかもしれないから、庭の隅の手作りの洞窟で、くらくけずられた豆腐歯はこなごなにしたり冷蔵飛び石の形に集まってななめに流れ出すまで」

2023年7月15日(土) - 8月6日(日) 11:00-19:00 月火祝 休廊

タリオンギャラリーでは、大石一貴、小宮りさ麻吏奈、湯田冴ほかによる展覧会を開催いたします。是非ともご覧下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

大石一貴は、粘土などの可変的な素材をもちいた彫塑や立体、映像、テキストといった様々なメディアで制作しています。大気と地面を巡る湿度の循環や、路上での鳥のゆくえなど、不可視で形態を持たないものに重力と時間軸を与えることで、その存在の束の間の碑をかたどり、物事の因果やそれを取り巻く意識をナラティブに呼び寄せます。

小宮りさ麻吏奈は自身の身体を起点に、新しい生殖・繁殖の方法についてクイア的視点から探索しています。植物や生体あるいは機械など、境界が揺らぎつつあるモチーフを取り込んで制作を行い、再建築不可能な土地に庭を作るプロジェクト「繁殖する庭」や、商店街の空きテナントで花屋の経営をする「小宮花店」など、多様な活動で知られています。

湯田冴は写真や映像といったメディアを使い、特定の事物や場所についてのドキュメントを複数の視点から結び合わせ、物語的経験をともなう作品を制作しています。近年では、人の身体の内側から生まれる結石と、宇宙空間から地表に引き合わされる隕石という、2つの相異なる石の発生をもとに、招かれざる石と人による変容の物語を展開しました。

本展覧会名は「血は水よりも濃い、」のあとを、参加作家たちがリレー形式でつなぐ形で構成されています。ここでは個々の作家の実践が分節されながらも共存し、新たな物語が派生するかたちを展示します。



湯田冴 | Voile | 2023

大石一貴 Kazuki Oishi

- 1993 山口県生まれ。東京都在住
2016 東京造形大学彫刻専攻卒業
2018 武蔵野美術大学大学院彫刻コース修了

粘土などの彫刻的な素材を扱いながら、テキストや映像など様々なメディアで制作を行う。不可視で弱く形態を持たないものに重力と時間軸を与えることでその存在の束の間の碑を作るように塑造し、物事の因果やそれを取り巻く意識をナラティブに呼び寄せる。

主な個展

- 2022 「For instance,Humidity」sandwich.gallery CFP (ブカレスト)
2017 「連結個展企画、むしろ例えてしまう-同じレベルのオーボールラトル-」東京造形大学ギャラリー mime (東京)

主なグループ展

- 2023 「シフト」gallery TOWED (東京)
2022 「おなじみのうごき」Art Center Ongoing (東京)
「大韓民国ソウル特別市チュングウルジロ 18 キル 25-2 ムンヨンビル 303 号の三 Q で 2022 年 12 月 9 日金曜日午後 12 時から始まり 2022 年 12 月 30 日金曜日午後 19 時に終わる展示に紺野優希と大石一貴とユ・ジョンミンは参加する。」三 Q (ソウル)
2021 「Artists in FAS 2020 入選アーティストによる成果発表展」藤沢市アートスペース (神奈川)
2020 「WALLAby / ワラビー」銀座蔦屋書店 (東京)
2019 「群馬青年ビエンナーレ 2019」群馬県立近代美術館 (群馬)
「東風」武蔵野美術大学 FAL/東京造形大学 CS ギャラリー (ソウル)
「PACK2019: STATION!」Post Territory Ujeongguk (ソウル)
「Ongoing FES 2019 Ongoing 祭りー Art Fair Ongoing-」Art Center Ongoing (東京)
「Open Studio in KURATA SOUKO」倉田倉庫群 (東京)
2018 「アタミアートウィーク 2018」大館ビル 506 号室 (静岡)
「フィクションアンドペースト」金真希 / 大石一貴 Art Center Ongoing (東京)
「作品を [飾る] #1」SUPER OPEN STUDIO 2018@ 相原スタジオ (東京)
「視覚の再配置 A4」SHIN 美術館 (清州)
「CAF 賞入選作品展覧会」代官山ヒルサイドテラス F 棟ヒルサイドフォーラム (東京)
2017 「彫刻と対話法 III - 思いどおりにする、をするか - 」府中市美術館 (東京)

主な企画・活動

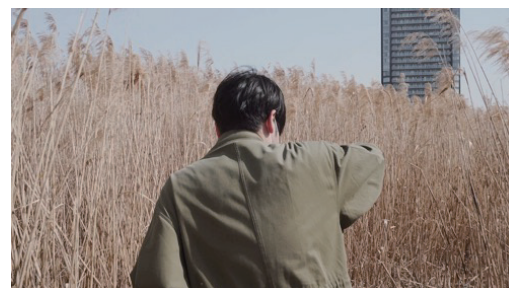
- 2022 展示設計 <私は少し静かにしてるね「17 月 3 日」>WALLA (東京)
2021 企画 / 運用 / 共同運営 2021~ 現在「WALLA Board」Wallaboard.Jp
企画 / 展示「路上のマチ」WALLA (東京)
2019 運営「東風」武蔵野美術大学 FAL/ 東京造形大学 CS ギャラリー (東京)
共同運営 2019~ 現在「WALLA」(東京) <https://walla.jp/>
2017 企画「連結個展企画、むしろ例えてしまう」東京造形大学ギャラリー mime (東京)



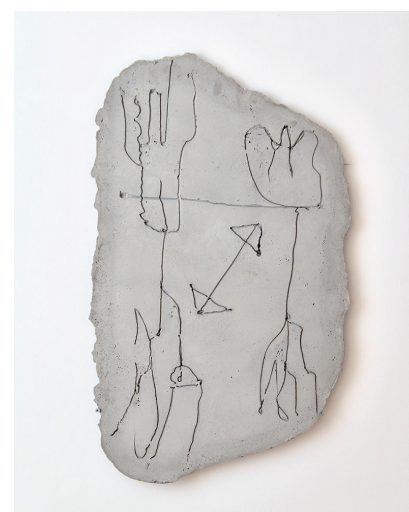
遠くの砂漠で鳴る音 | 2022
砂、ブLOWER、風、ポリプロピレン袋、アルミ角パイプ、針金、ハーモニカ、和音 D F A
サイズ可変 | 撮影: ヤン・イオン



For instance,Humidity | 2022
粘土、水、ガラス瓶、金属、麻、乾燥、湿気 | サイズ可変



気かけられるって、うれしいね。in TAMA ART CENTER TOUR
2022 | 24 分 9 秒 | 映像



裏返し、上に下に、離れ離れに。吐いては吐いて、吸っては吸って。の根の碑 | 2020 | セメント
90x50x3cm

小宮りさ麻吏奈 Marina Lisa Komiya

パフォーマンス、映像、インスタレーションなど複数のメディアを横断しながら「人類における新しい生殖の可能性」について自身の身体を起点に模索している。再建築不可の土地に庭をつくるプロジェクト「繁殖する庭」(2018～)やオルタナティブスペース「野方の空白」の運営(2016～2018)、「小宮花店」の運営(2016～2017)などを行う。

主なプロジェクト

- 2021 「FAQ?」
- 2020 NRR vol.1「ノアの方舟」(n-r-r.com)
- 2018- 「繁殖する庭」 運営
- 2016-2018 「野方の空白」 運営
- 2016-2017 「小宮花店」 経営

主な個展

- 2021 「繁殖する庭」繁殖する庭プロジェクト名義 TOH (東京)
「Operation; Operation」縫薙山纏翫↑名義 IN SITU (名古屋)
- 2018 「-ATCG」TAV GALLERY (東京)
「野方の空白」引越しのお知らせと地鎮祭の記録 野方の空白 (東京)
- 2017 「小宮花店」閉店セール 小宮花店 (東京)
- 2016 「窓」カタル Safia Doha Hotel 311 (カタル)

主なグループ展

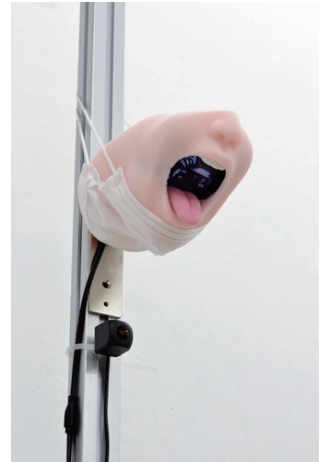
- 2022 「とうとうたたりたたりたたりあがりららりとう」新宿歌舞伎町能舞台 (東京)
「WHITE HOTEL」WHITE HOUSE (東京)
「沿海マッピング」Under Construction Center presents (福岡)
- 2021 「惑星つぎのコミュウ」TALION GALLERY (東京)
「ヌケガラ (OFF) とマトイ (ON) (正体を隠すこと (ON) とそれを脱ぎ捨てること (OFF) の、あいだにあるものを教えなさい)」TALION GALLERY (東京)
「AIR2 SCG」BnA Alter Museum (京都)
「Try the Video-Drawing」TAV GALLERY (東京)
- 2020 「光光 DEPO」カタルシスの岸辺名義 EUKARYOTE (東京)
「荒れ地のアレロパシー -5人のキュレーターによる現代美術展覧会-」MITSUKOSHI CONTEMPORARY GALLERY (東京)
- 2019 「瀬戸内国際芸術祭 2019 KOURYOU 作品『家船』」(香川)
「コ本や Selection Vol.01」コ本や (東京)
- 2018 「始末をかく」BUoY (東京)
- 2017 「恋せよ乙女！梅津庸一とパーブルーム大学」ワタリウム美術館 (東京)
- 2016 「ゲルゲル祭」パーブルームプーポンポン (神奈川)

主なイベント・パフォーマンス

- 2023 「映画『繁殖する庭』パンフレット完成上映会」PARA (東京)
- 2022 「スティルライブ / Stilllive」ゲーテ・インスティトゥート (東京)
- 2021 「上演とトーク『創作能・浦島太郎』」美学校 (東京)



This is not self-replication | 2022
新宿歌舞伎町能舞台 | インスタレーションビュー



オーラル・スクリーニング | 2021
人工腔、モニター、カメラ、マスク
12x7x19cm | 撮影：酒井透



繁殖する庭 | 2021 | 映画



蓬菜島古墳 | 2019
ミクストメディア | リボンアートフェスティバル 2019 での展示風景

湯田 牙 Sae Yuda

2022 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科卒業
横浜国立大学大学院都市イノベーション学府建築都市文化専攻
在籍

特定の物や場所について、リサーチをもとに SF を主題とした写真・映像を制作することで別の視点から世界を記録することを試みている。

主な個展

2022 「惑わせるもの When a meteorite crushed」 PARA (東京)

主なグループ展

2023 「一層」シリーズ (『KUMA experiment』の第六弾としての企画展)
クマ財団ギャラリー (東京)

2021 「蛇とあの子とサイボーグ」 PARA (東京)

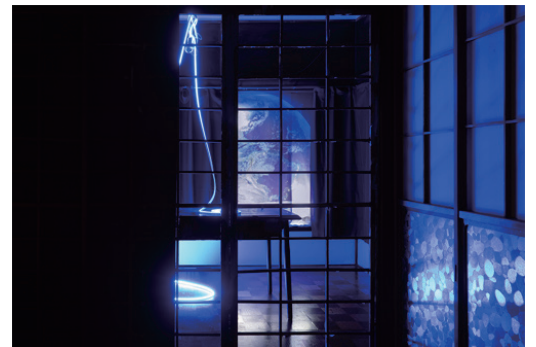
2020 「未日常」新宿眼科画廊 (東京)



幽霊惑星が下るす夜 | 2022 | 写真



幽霊惑星が下るす夜 | 2022 | 写真



蛇とあの子とサイボーグー船室ー | 2021 | インスタレーション
撮影: 湯田牙



降り立った惑星 | 2020 | 映像 13分 54秒

—
本展覧会に関しまして貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸いです。掲載用写真の貸出、ご質問などございましたら、下記お問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

[展覧会概要]

展覧会名	血は水よりも濃い、何も分かってないのかもしれないから、庭の隅の手作りの洞窟で、くらくけずられた豆腐歯はこなごなにしたり冷蔵飛び石の形に集まってななめに流れ出すまで
アーティスト	大石一貴、小宮りさ麻吏奈、湯田冴、ほか
会期	2023年7月15日(土) - 8月6日(日) 11:00-19:00 定休日：月・火・祝日
会場	TALION GALLERY 東京都豊島区目白2-2-1 B1
企画	上田剛史 (TALION GALLERY ディレクター)

[お問い合わせ]

TALION GALLERY 広報担当

Email: info@taliongallery.com Tel/Fax: 03-5927-9858

171-0037 東京都豊島区目白2-2-1 B1 URL: www.taliongallery.com